

## 0. 要旨

本発表では、Chomsky (2015) のラベル付けアルゴリズムに基づき、補文標識・後置詞句・副詞接尾辞など多機能である「と」の統一分析を提示し、「と」は派生された構造をつなぎあわせる linker だと主張する。「と」が範疇素性を一切持たないために、無ラベル構造を生成し、この無ラベル構造が自由付加 (free adjunction) を可能にし、「と」に付随する語句が様々な統語環境で表出すると主張する。「と」が導入する統語要素・構造のラベル・機能は、補部の場合、述部の意味役割構造が定めた位置関係によって決まり、意味役割に応じたラベル・機能を与えられる。他方、付加節の場合は「XP-と」が付加した統語環境と XP の品詞によって機能が決まる。後者の場合、XP 自体のラベルは SM/C-I によって解釈可能であり、linker である「と」により XP が付加した統語構造に付随することは保証されるが、「XP-と」にラベルを与えるものがないので、無ラベルのままである。結果、補部節の場合はラベルがあり、探索可能領域になるが、付加節は無ラベルであり探索が不可能となり、Chomsky (2004) の secondary plane の特徴を有するようになる。

## 1. 概説

## (1) 「と」の統一分析

## i. 「と」: 範疇素性の値が欠落する主要部

The Labeling Algorithm (LA):  $\{\circ\{X, YP\}, \text{と}_{[0]}\} - \text{最小探索} \rightarrow \text{「と」}$

## ii. LA と自由付加 (Saito 2018, Sorida 2021, 2022): 「と」の様々な統語環境の表出

a.  $\{\{\circ\{XP, \text{と}_{[0]}\}, V\}\} \rightarrow \{\{c\{XP, \text{と}_{[0]}\}, V\}\}$ 

C-I にて、Theta System (Rainhart 2016) に基づく認可

b.  $\{\{\underline{g}\{XP, \text{と}_{[0]}\}, \{\alpha\ \alpha\ YP\}\}\} \rightarrow \{\{\alpha\ \{\underline{g}\{XP, \text{と}_{[0]}\}, \{\alpha\ \alpha\ YP\}\}\}$ 

付加構造 (Adjunction Structure): 役割・機能の決定 ← 統語環境・XP の品詞

## (2) 理論的背景

## i. レキシコン: 機能範疇の項目に別々の複数の「と」を登録する必要性 (非統一分析)

## ii. メカニズムの最適性: 併合操作とラベル付け (「と」の範疇を規定した非統一分析)

## iii. 統語領域と概念意図部門 (C-I) の一貫性: 「と」にまつわる多様性

## (3) 「と」の多様性 (cf. Fukui 1986, 1995, Motomura 2002, Saito 2015, Shimamura 2018 など)

## a. 品詞・役割

## 1. 補文標識/引用標識

## 2. 助詞 (後置詞/副詞接尾辞)

## 3. 等位接続詞

## b. XP+「と」の機能

## 1. 補文節 (コントロールなど)

## 2. 補部引用節

## 3. 副詞引用節

## 4. 副詞従属節 (条件節・時制節・目的節)

## 5. 共格名詞句 (補部/副詞句)

## 6. 小節述部

## 7. 付加副詞句

## 8. 等位接続 (名詞) 句

## c. 統語環境

## 1. 動詞の補部 [節/名詞句]

## 2. 小節の述部 [名詞句・副詞]

## 3. 副詞句/副詞節 [名詞/副詞/数量詞/節]

## 4. 項/副詞句 [名詞]

## (4) 生成文法理論の理論的示唆

## i. 自由付加 (free adjunction) p

## ii. Syntactic Linker

## iii. 付加構造: 無ラベル構造 → 不可視性/Secondary Plane (Chomsky 2004)

## 2. 「と」の分布範囲

## (5) コントロール節 [補部] (Fujii 2006, Uchibori 2001)

a. 春<sub>i</sub>が [ $\Delta_i$ 私<sub>\*i</sub>]の会社に入る\*(と) 決めた

- b. \*彼ら<sub>i</sub>は「春<sub>j</sub>が[Δ<sub>i,\*j</sub> お互いを推薦しあうと] 決めた  
cf. 彼ら<sub>i</sub>は[Δ<sub>i,\*j</sub> お互いを推薦しあうと] 決めた
- (6) 補文節 [補部/節] (cf. Saito 2015, 斎藤 2016)  
a. 春は [[自分<sub>i</sub>の部下がこの場所に夏を招いた] と] 思った  
b. \*春は [[自分<sub>i</sub>の部下がこの場所に夏を招いた] の] を思った  
b'. 春は [[自分<sub>i</sub>の部下がこの場所に夏を招いた] の] を考慮した  
c. 春は [[夏が本を買ってくる] と] 言っていた  
d. \*春は [[夏が本を買ってくる] の] を言っていた  
d'. 春は [[夏が本を買ってくる] の] を伝えていた
- (7) 補文節 [補部/節] (cf. Saito 2012, 2015, 斎藤 2016)  
a. 春が夏<sub>i</sub>に [[Δ<sub>i</sub>猫語学会会長を辞めろ]] と命じた  
b. \*春が夏<sub>i</sub>に [[Δ<sub>i</sub>猫語学会会長を辞める]] と命じた  
c. 春<sub>i</sub>が夏<sub>i</sub>に [[秋<sub>j</sub>が自分<sub>i,j</sub>の親に会った\*(か)] と] 尋ねた
- (8) 補文節 [補部/節] (斎藤 2016 cf. Motomura 2002)  
a. 春<sub>i</sub>は [[自分<sub>i</sub>の部下が業績向上を招いた] と] 判断を喜んでいる  
b. 春<sub>i</sub>は [[取引先が私<sub>i,j</sub>の仕事を打ち切ってきた] と] 不運を嘆いた  
c. 春は夏<sub>i</sub>に [[君<sub>i,j</sub>の学生がこの研究室に入るのか] と] 事実を確認した
- (9) 述部 [補部/小節]  
a. 春は [[部長候補] と] なった  
b. 春は夏を [[不思議系(??だ)] と] 分類した  
c. 春はバイオリンを [大事な宝物[(だ)] と] 見なした  
d. 春は [[きっぱり] と] している
- (10) 共格名詞句 [補部/名詞句]  
a. ナムコが [[バンダイ] と] 合併した                      b. 春が [[夏] と] 婚約した
- (11) 副詞節 [付加部/節]  
a. [[最後の学生が建物を出る] と]、管理人が入り口を閉める                      [条件節]  
b. 春<sub>i</sub>が [[Δ<sub>i</sub>終電に乗ろう] と]、駆け出した    [目的節]  
c. 昨日、春が、[[夏が正門前に来る] と]、窓から手を振っていた                      [時制節]
- (12) 共格 [付加部/名詞句]  
a. 春は [[夏] と] 1位の座を争った  
b. 春<sub>i</sub>は [[夏] と] 一緒に {自分<sub>i,\*j</sub>/\*お互い} の親に会った  
c. 春はチョコを [アイスと] 食べた
- (13) 副詞句 [付加部/副詞] (Shimamura 2018)  
a. 春は [[二度] と] 練習を休まなかった  
b. 春の演奏は [[何] と] 素晴らしいんだろう  
c. 春は [[すんなり] と] 人形を作った                      d. このタオルは [しっとり] と やわらかい  
e. 春は [[切々] と] バイオリンを弾いた                      f. 春は [[ぱっ] と] バイオリンを弾いた
- (14) 副詞引用節 [付加部/節] (Miyamoto 2016, 野口 2017, Shimamura 2018,)  
a. 春<sub>i</sub>は [[私<sub>j</sub>はあなた<sub>j</sub>を誇りにしている] と] 夏<sub>j</sub>に食事をおごった  
b. 春<sub>i</sub>は [[おいら<sub>j</sub>が演奏会を成功させる] と] 部室に走り出した  
c. 春は [[えっと、夏が大学にいるんだ] と] 外に出かけた
- (15) 等位接続名詞句 [項・所有者・付加部/名詞句] (cf. Kasai & Takahashi 2002)  
a. [[春] と [夏]] が一緒に研究している

- b. 春が違う日に [[夏] と [秋] の演奏会] に参加した
- c. 春が [[本屋] と [カフェ]] で昼休みを過ごした

(16) 「XP-と」：補部

I. 補文節: コントロール節 (5), 補文節 (6-8)

- i. 選択関係: (5) コントロール節 (6) 「の」節の選択不可 (7) Sentential Force の選択関係  
「て」削除 (6) → CP (Kishimoto 2006, Saito 1987)

- a. あんたが [[春が帰ってくる] (て)] ゆうた
- b. あんたが [[春が帰ってくるか] \*(て)] ゆうた
- c. [[自分が天才や] \*(て)]<sub>i</sub> 春が<sub>t<sub>1</sub></sub> ゆうた
- d. It seemed [∅ David had left]. (C-Deletion by Bošković and Lasnik (2003))
- e. \* It seemed at that time [∅ David had left].

ii. 意味役割: (8) Content (Motomura 2002, Pietroski 2000. cf. 斎藤 2016)

- a. Nora explained that Fido barked → Nora explained [<sub>DP</sub> the fact [<sub>CP</sub> **that Fido barked**]].
- b. [[君<sub>i,j</sub>の学生がこの研究室に入るのか]<sub>i</sub> と] 春が夏<sub>i</sub>に<sub>t<sub>1</sub></sub> 事実を確認した
- cf. 春は夏<sub>i</sub>に [[君<sub>i,j</sub>の学生がこの研究室に入る] と いう] 事実を確認した

iii. かきまぜ操作による抜き出し (Munakata 2022)

- a. [私の会社に]<sub>i</sub> 春<sub>i</sub>が [Δ<sub>i</sub> <sub>t<sub>1</sub></sub> 入ると] 決めた
- b. [この場所に]<sub>i</sub> 春<sub>i</sub>は [[自分<sub>i</sub>の部下が<sub>t<sub>1</sub></sub> 夏を招いた] と] 思った (6a)
- c. 春<sub>i</sub>は夏<sub>i</sub>に [[私<sub>i,j</sub>の先生が誰に会った(か)] と]<sub>2</sub> 夏に<sub>t<sub>2</sub></sub> 尋ねた (7c)
- d. [MIT に]<sub>i</sub> 春<sub>i</sub>は [[私<sub>i,j</sub>の学生が<sub>t<sub>1</sub></sub> 留学する] と] 報告を喜んだ (8b)

[間接引用]

[間接引用]

iv. wh 疑問詞の長距離疑問文の解釈 (Munakata 2022)

- a. 春が [Δ<sub>i</sub> <sub>t<sub>1</sub></sub> どこに入ると] 決めたの?
- b. 春<sub>i</sub>は [[自分<sub>i</sub>の部下がどこに私を招いた] と] 思ったの? (6a)
- c. 春は夏<sub>i</sub>に [[Δ<sub>i</sub> 何を辞めろ] と] 命じたの? (7a)
- d. 春は [[取引先がどの契約を打ち切ってきた] と] (不運を) 嘆いているの? (8b)

v. 自分 → 主語

- a. 春は [[自分<sub>i</sub>の部下が私をこの場所に招いた] と] 思った (6a)
- b. 春<sub>i</sub>が夏<sub>i</sub>に [[秋<sub>j</sub>が自分<sub>i,j</sub>の親に会ったか] と] 尋ねた (7c)
- c. 春<sub>i</sub>は [[自分<sub>i</sub>の部下が業績向上を招いた] と] 判断を喜んでいる (8a)

II. 名詞句: 共格名詞句 (10)

- i. 選択関係: 「婚約する」、「戦う」...
- ii. 項省略 (sloppy identity: OK) (cf. Oku 1998)
  - a. 源頼朝<sub>i</sub>が [[自分<sub>i</sub>の弟] と] 戦ったし、織田信長<sub>j</sub>も [[自分<sub>j</sub>の弟] と] 戦った
  - b. # 源頼朝<sub>i</sub>が [[自分<sub>i</sub>の領地] で亡くなったし、上杉謙信も[[自分<sub>i</sub>の領地] で亡くなった

III. 述部: 小節

- i. 選択関係: 「なる」「分類する」「する」
  - a. 春は \*([[部長候補] と]) なった
  - b. 春は \*([[きっぱりと]]) している

(17) 「XP-と」：付加部

I. 副詞節 (11)

i. かきまぜ操作による移動の阻止

- a. \* [建物を]<sub>i</sub>、夏休みは[[最後の学生が<sub>t<sub>1</sub></sub> 出る] と]、管理人が入り口を閉める [条件節]
- b. \* 終電に、夏が [[春<sub>i</sub>が [[Δ<sub>i</sub> <sub>t<sub>1</sub></sub> 乗ろう] と]、駆け出した] と] 言った [目的節]
- c. \* [夏に]<sub>i</sub>、春が、[[先生が<sub>t<sub>1</sub></sub> 挨拶する] と]、窓から手を振っていた [時制節]

ii. 条件節の特殊性

- a. [[誰が説得しよう] と]、学生は言語学の授業を取る [量化解釈]
- a'. \* 春が[[誰が夏に挨拶する] と]、窓から手をふっていた [時制節/量化解釈不可]

- a''. 誰の説得でも、学生は言語学の授業を取る
- b. [[春がバイオリンを弾くと]、学生なら、音楽室に聴きに行った] [条件節]
- b'. 学生なら、[[春がバイオリンを弾く]と]、音楽室に聴きに行った [条件節/時制節]

iii. 目的節: Obligatory PRO (Fujii 2006, Uchibori 2001)

- a. 春<sub>i</sub>が [[ $\Delta_i$  ご飯を食べよう]と] 学食に来た [目的節/コントロール有]
- b. 春<sub>i</sub>が [[ $\Delta_{i,j}$  ご飯を食べ終える]と] 私たちの所にやってきた [時制節/コントロール無]

II. 副詞句: 共格名詞句 (12), 副詞/副詞句 (13)  
動詞句・形容詞句など、述部を修飾する

III. 副詞引用節 (Munakata 2022)

- i. 選択関係の欠如: 「おごる」, 「走り出す」 「出かける」
- ii. 直接引用: 1人称 → 主語/×話し手, 2人称 → 「に」格名詞句 ×聴き手, 自身 → ×主語
- a. 春<sub>i</sub>は [[私<sub>i</sub>おいら<sub>i</sub>はあなた<sub>j</sub>を誇りにしている]と] 夏<sub>j</sub>に食事をおごった
- b. \*春<sub>i</sub>は [[自分自身<sub>i</sub>が演奏会を成功させる]と] 部室に走り出した
- c. 春<sub>i</sub>は [[自分自身<sub>i</sub>がリーダーに推薦される]と] 思っている [補文節/Saito 2022]
- d. 春<sub>i</sub>は [[自分自身<sub>i</sub>がリーダーに推薦されそうだ]と] 不安を感じている [補文節/Content]
- iii. 間投詞 (野口 2017, Shimamura 2018)
- a. 春<sub>i</sub>は [[ああ、私<sub>i</sub>はあなた<sub>j</sub>を誇りにしている]と] 夏<sub>j</sub>に食事をおごった (14a)
- b. 春は [[えっと、夏が大学にいるんだ]と] 外に出かけた (14c)
- iv. かきまぜ操作による移動の阻止 (Miyamoto 2016)
- a. \* [演奏会を]<sub>i</sub> 春<sub>i</sub>は [[私<sub>i</sub>が<sub>i</sub>成功させる]と] 部室に走り出した (14b)
- b. \* [大学に]<sub>i</sub> 春<sub>i</sub>は [[えっと、夏が<sub>i</sub>いる]と] 外に出かけた (14c)
- v. wh 疑問詞の長距離疑問文の解釈 (Munakata 2022)
- a. \* 春は[[私<sub>i</sub>は何を成功させる]と] 頑張ってバイオリンを練習しているの?
- b. \* 春は[[えっと、誰が大学にいるんだ]と] 外に出かけたの?

(18) 「XP-と XP」: 等位接続名詞句

- i. 選択制限 – ○ 複数の NP/DP(/PP) × 形容詞・動詞(・主題)
- a. 春が [[図書館 (?へ)]と [大学へ]]、[自転車(\*で)]と [電車]]で行った
- b. [[春(\*は)]と [夏]]は [[13時から]と [15時から]] バイオリンを弾く
- c. \*春のバイオリンは [[心地いい]と [やわらかい]]
- d. \*春が箱を [開け]と [閉め]と]した
- e. \*春が [[ピアノを弾き]と [楽曲を歌っ]]た
- f. ?\*春が [[ピアノを弾き]と [楽曲を歌い]と]した

3. 提案: syntactic linker としての「と」

(19) 「と」の統語的特徴

- i. 「XP-と」のラベル: C, D/N, Pred (述部), P, &P
- ii. 統語環境:
- a. 補部: 動詞の補部/選択要素
- b. 付加部: 付加している統語構造を修飾 – event (CP/TP), action, state (vP/VP/AP)
- c. 等位接続句: 名詞句(/前置詞) 接続

3.1 先行研究と統一分析

(20) 先行研究

- i. 補文標識/引用標識: Kubo 1992, Uchibori 2001, Fujii 2006, 野口 2017, Saito 2012,2015 など
- ii. 後置詞: Fukui 1986, 1995

- iii. 内在格接辞 (inherent case marker): Motomura 2003
- iv. 副詞/付加接辞 (adjunct clitic): Shimamura 2018.
- v. 等位接続詞: Kasai & Takahashi 2002)

(21) 分析に対する諸問題

- i. レキシコン: 「と」 - 範疇素性, 機能, 選択要素 → 異なる複数のものを想定する必要
- ii. メカニズムの最適性 (Chomsky 2021): X(P)+「と」併合 (Merge), ラベル付け (labeling)  
→ 併合には、余分な情報を入れる余地がなく、ラベル付けに関するものは素性のみである。後は、受け手側の C-I (意味役割・解釈規則など) に対する出力により、最適なデザインが形成される
- iii. 統語領域と C-I の一貫性: 入力要素「と」の統一性 ← categorizer の欠落  
幅広いラベル・役割・統語環境を有するものを規定するのは、最小最適性に反する

3.2 ラベル付けアルゴリズム (LA: The Labeling Algorithm)

(22) The Labeling Algorithm (Chomsky 2015)

Labeling is necessary for syntactic objects to be interpreted at the interfaces.

- i.  $\{H, YP\} \rightarrow \{_H H, YP\}$
- ii. a.  $\{XP \{Y Y, ZP\}\}$  IM of XP  $\rightarrow \{Y XP \{Y Y, ZP\}\}$   
b.  $\{X X_{[F]}, \alpha P\}, \{Y Y_{[F]}, \beta P\}\}$  Agree in F  $\rightarrow \{F \{X X_{[F]}, \alpha P\}, \{Y Y_{[F]}, \beta P\}\}$

(23) i. Sorida (2021, 2022)

$\{\{NP, K\}, \{YP, v^*\}\}$  K: no semantic content  $\rightarrow \{v^* \{\{NP, K\} \{YP, v^*\}\}$

ii. Saito (2018)

$\{\{DP, K_{[格:]}\}, \{vP, T\}\}$  K: 弱主要部  $\rightarrow \{T \{\{DP, K_{[格:]}\}, \{vP, T\}\}$

3.3 無範疇素性と無ラベル構造

(24) 「と」: 範疇素性: 0 - no semantic content

(25) 「XP-と」副詞: 多様な意味 → ×統一的な機能

- a. 春は [[一度/二度] と] 練習を休まなかった (13a)
- a'. 春は [一度/二度] も 練習を休まなかった
- a''. 春は |[[5 回] と]/5 回も| 練習を休まなかった
- b. 春は [[何十曲] と] 楽曲を弾いた
- b'. 春は [何十曲] も 楽曲を弾いた
- c. 春は 演奏会に [15 回と] 出た
- d. 春は 新曲を [15 曲と] 出した
- e. 春の演奏は [[何] と/\*も] 素晴らしいだろう
- f. 春は [教室の奥へ] と] 向かった

(26) Generalization of Extraction under Labeling (Goto 2016)

An unlabeled syntactic object is opaque for extraction but becomes transparent if it is labeled.

(27) Search cannot be applied to an internal structure of an unlabeled object.

(28) LA と自由付加 (cf. 大塚 2022)

- i.  $\{_{\emptyset} XP, \text{と}_{(\emptyset)}\}$   
ラベル: 主要部「と」(22i) → 範疇素性 0 (24) → 「と」: ラベル提供不可能 → 無ラベル
- ii.  $\{Y \{_{\emptyset} XP, \text{と}\}, \{Y, ZP\}\}$   
無ラベル構造 → 最小探索不可能 (27) → ラベル: Y

(29) Labelling by Theta System (Rainhart 2016, cf. Chomsky 2021)

無ラベル統語要素が述部項構造の  $\theta$  位置に外的併合した場合、Theta System によって認可され、項構造に基づいて、ラベルを帯びる

- (30) C-I 解釈規則: 修飾関係  
無ラベル統語構造は付加した統語領域を機能し、その主要部及び主要部が取る補部に応じて、修飾関係や等位体などの解釈・機能が決定される

#### 4. 分析

- (31) 補文節  $\{v \{c \text{ XP, と} \}_{<\text{Theme}>, V\} (5-7) / \{v \{c \text{ XP, と} \}_{<\text{Content}>, NP_{<\text{Theme}>}, V\} (8)$   
(16) の特徴の説明
- i. 動詞の意味構造による選択制限 CP (cf. Saito 2012, 2014, 斎藤 2016)  
(5) コントロール (6) 「の」節 不可 (16a) 「て」削除 (野口(2017) (17III iii) 間投詞禁止)
  - ii. Form Copy (Chomsky 2021, Saito 2022):  $\{XP_1 \{YP, \alpha \{\beta, XP_1\}\}\}$   
抜き出し → 探索可能 (27) → Internal Merge (IM) による移動 → Form Copy [探索 (27)]
  - iii. 主文主語による『補文節主語「自分自身」』の束縛 (17III. ii. c-d)  
Saito (2022): Anaphor Binding at Transfer  
Anaphor binding is possible between a binder (主文主語/matrix vP-Spec) and anaphor (自分自身/embedded TP-Spec) in the same transfer domain (a matrix vP phase and an embedded CP phase).
  - iv. C-I: 選択関係 → 解釈規則適用可: wh 疑問の長距離疑問文, 「自分」と主文主語の指標
- (32) 共格名詞句:  $\{v \{N \text{ NP, と} \}_{<\text{Theme}>, V\} (10) \rightarrow$  項省略
- (33) 述部:  $\{v \{sc \text{ NP, } \{\text{Pred/SC XP, と}\} \}_{<\text{State}>/<\text{Theme}> V (「なる」「する」「分類する」)}$
- (34) 付加部  $\{y \{o \text{ XP, と}\} \{ZP, Y\}\}$
- i. 無ラベル構造 → 統語: 「XP-と」内 (= XP) 探索不可能 → Secondary Plane (Chomsky 2004)
  - ii. 「XP-と」内部から、かきませ操作による語彙項目の移動の禁止 (17I. i. a) (17III)  
探索不可能 → IM による移動付加または自由併合で移動しても、Form Copy により不可
  - iii. (31iii) 主文主語による『補文節主語「自分自身」』の束縛不可能 (17III. ii. a-b)
  - iv. 「XP-と」全体は探索可能 → 「XP-と」のかきませ操作可能
    - a. [[ゆっくり] と][[夏] と][[何百回] と] 春はバイオリンを弾いた
    - b. [ $\Delta_i$  部活に行こうと]、春<sub>i</sub>は部室に向かった
- (35) 副詞節: 併合する場所により、選択関係が生じ、機能が決まる (11) (Larson & Sawada 2012)
- I. 条件節: CP 内に併合し、TP を作用域にとり、TP が示す事象の環境を制限する
    - a. When John visited Paris, he always ate in a café. (Larson & Sawada 2012)
      1. ‘In all situations in which John visited Paris, he ate in a café’
      2. ‘At the time John visited Paris, he ate in a café.’
      - 1’. ALWAYS ( $\lambda e$  [John visited Paris (e)]) ( $\lambda e$  [John ate in a café (e)])
      - 2’. SOMETIME ( $\lambda e$  [John visited Paris (e)]) ( $\lambda e$  [ALWAYS ( $\lambda e'$  [C(e) &  $\Pi$  (e',e)])] ( $\lambda e'$  [John ate in a café (e)])
    - i. CP 内に併合 → 量化解釈 (17I.ii. a)/ 「NP なら」との位置関係 (17I.ii. b/b')
  - II. 時制節: TP と併合し、時制節内の Event が存在量化を受ける
  - III. 目的節 (cf. Fujii 2006)  
VP と併合し、C-I にて、Event Structure の項として機能し、動詞句が表す Activity (Process) と関係づけられる
    - i. Munakata 2022 [parasitic gaps, ATB etc.] (17I. iii. a) (cf. Chomsky 2021, Saito 2022)  
Form Copy may apply to instances of an identical lexical item at C-I when the value of relevant features (here, case) on them is the same and they are transferred together.
    - a.  $\{T \text{ 春}^A_i \text{ が } T \{v \text{ 春}^B_i \text{ が } v \{v \{ \text{春}^a_i \text{ が } T \text{ 春}^b_i \text{ が } v \text{ ご飯を食べよう} \} \} \} \}$   
C-I: 動詞句-目的節 関係あり → 探索可能 → Form Copy: 「春<sup>B<sub>i</sub></sup>が」「春<sup>a<sub>i</sub></sup>が」
- (36) 副詞引用節 (Miyamoto 2016): 動詞句領域に併合
- i. 述部/Event Structure: 選択関係なし → 付加部/無ラベル構造 → 探索不可能

- wh 疑問詞の長距離疑問文の解釈欠如, 主文主語 「自分」の指標欠如 (17III. ii, iv)
- ii. 述部との選択関係なし → 直接引用のみ可 → 間投詞可能 (17III. iii)
- iii. 「と」 → VP との統語的な関係保証 → (30) 動詞句修飾
- 動詞句が表す Activity (Process)/State の思考・言動を表す

- (37) 副詞句: (30) – Event Structure に応じ、付加した動詞句領域・述部領域の程度/様態/頻度を修飾する
- a. 春は [二度 と] 練習を休まなかった (25a) [頻度] (Nakanishi 2007)
  - b. 春は |[ [5 回] と] 練習を休まなかった (25a”) [頻度]
  - c. 春は |[ [何十曲] と] 楽曲を弾いた (25b) [頻度]
- (38) 等位接続名詞句:  $\{\{_{ND} \{_{o} NP/DP, と\}, \{... N/D\}\} / \{P \{_{o} PP, と\}, \{P NP/DP, P\}\}$
- i. (30) → 付加した NP/DP(, PP)の等位格
  - ii. 述部: Event Structure の核 → C-I 解釈要求 → 解釈不可能 ⇐ 無ラベル構造 (18c-f)
  - a. \*春のバイオリンは |[心地いい] と [やわらかい]
  - b. \*春が箱を |[開け] と [閉め] と] した

## 5. 結論

- (39) 「と」: Syntactic Linker → 自由付加  
 (29) (30): 統語環境により、「XP-と」の機能・ラベル決定 → 付加する Y/YP にて決定  
 → 「XP-と」の多様な特徴を導き出せる

**参考文献** Bošković & Lasnik. 2003. ‘On the Distribution of Null Complementizers’. *Linguistic Inquiry* 34: 527-546.  
 Chomsky. 2004. ‘Beyond Explanatory Adequacy’, In Belletti ed. *Structures and Beyond: Volume 3: The Cartography of Syntactic Structures*: Oxford University Press. Chomsky. 2015. ‘Problems of Projection: Extension’, in Di Domenico, et al. eds. *Structures, Strategies and Beyond*. John Benjamins. Chomsky. 2021. ‘Minimalism: Where Are We Now, and Where Can We Hope to Go’. *Gengo Kenkyu* 160. Fujii. 2006. *Some Theoretical Issues in Japanese Control*. Ph.D Diss. University of Maryland. Fukui. 1986. *Category Projection and Its Applications*. Ph. D. Dis. MIT. Fukui. 1995. ‘The Principles-and-Parameters Approach: A Comparative Syntax of English and Japanese’, in Shibatani et al. eds. *Approaches to Language Typology*: Oxford University Press. Goto. 2016. ‘Labelability = Extractability: Its Theoretical Implications for the Free-Merge Hypothesis’. *Proceedings of the 46th Annual Meeting of the North East Linguistic Society*. Kasai & Takahashi. 2002. ‘Coordination in Japanese’, in Cuervo, D. et al. eds. *Proceedings of FAJL 3: Formal Approaches to Japanese Linguistics*. Cambridge, MA.: MITWPL. Kishimoto. 2006. ‘On the existence of null complementizers in syntax’. *Linguistic Inquiry* 37, 339-345. Kubo. 1992. *Japanese syntactic structures and their constructional meanings*. Ph.D diss. MIT. Larson & Sawada. 2012. ‘Root transformations & quantificational Structure.’ In Haegeman, et al. eds. *Main Clause Phenomena*. John Benjamins. Miyamoto. 2016. ‘Quotes in Japanese’. A talk given at The 1st Workshop on Generative Grammar in View of Japanese. Motomura. 2002. ‘The Thematic Roles of Sentential To/Ko Complements in Japanese/Korean’. in Clancy ed. *Japanese/Korean Linguistics II*: CSLI Publications. Munakata. 2021. ‘Optimal Solution to Copy: Deriving its Role in Syntactic Mechanism’. ms. YNU. Munakata. 2022. ‘Transparency/Opacity of -to clauses.’ *Ars Linguistica* 28. Nakanishi. 2007. *Formal Properties of Measurement Constructions*. Mouton de Gruyter. 野口. 2017. 「日本語直接引用節再考 – 生成文法・日本語学の観点から –」 第 154 回日本言語学会発表論文 大塚. 2022. Pair-Merge と FORM SEQUENCE」. シンポジウム講演 『SMT 下における Merge とその補助的操作について- pair-Merge から FORMSEQUENCE へ』. 日本英文学会第 94 回大会. Pietorski. 2000. On Explaining That. *Journal of Philosophy* 97: 655-662. Reinhart. 2016. *Concepts, Syntax and Their Interface: The Theta System*: MIT Press. Saito. 2012. ‘Sentence Types and the Japanese Right Periphery’. In Grewendorf et al. eds *Discourse and Grammar: From Sentence Types to Lexical Categories*. Mouton de Gruyter, Berlin. Saito. 2015. *Cartography and Selection: Case Studies in Japanese*. In *Functional Sequence: The Cartography of Syntactic Structures, Volume 10*. ed. by Ur Shlonsky, 255-274, Oxford: Oxford University Press. 齋藤. 2016. 「日本語における補文の分布と解釈」『日本語文法ハンドブック 言語理論と言語獲得の観点から』村杉、齋藤、宮本、瀧田 (編) 東京: 開拓社. Saito. 2018. ‘Kase as a Weak Head’. *McGill Working Papers in Linguistics* 25.1 (Special Issue in Honour of Lisa Travis). Saito. 2022. ‘Two Notes on Copy Formation’. *Nanzan Linguistics* 17. Shimamura. 2018. *The Theory of Quotative Complementation in Japanese Semanticsyntax*. Ph.D. Diss. UConn. Sorida. 2021. ‘Revisiting the Agreement Parameter: A Preliminary Study’. *Reports of the Keio Institute of Cultural and Linguistic Studies* 52. Sorida. 2022. ‘Japanese Morphological case in Labeling Theory’. A talk given at Lecture Series of Linguistics of Sophia University. Uchibori. 2001. *The Syntax of Subjunctive Complements: Evidence from Japanese*. Ph. D Diss. Uconn.